

## 令和2年度 第3回次期右京区基本計画編集会議 議事録(要約)

開催日時	令和2年11月4日(水) 14時00分～16時00分
開催場所	オンライン会議室 (zoom)
出席委員 (敬称略)	射場, 岡田, 岡本, 鈴木理夫, 鈴木義康, 田沢, 土井, 徳丸, 中川, 永橋, 松田, 山田, 古川 (代理出席), 脇田
欠席委員 (敬称略)	折居, 坂口, 高岡, 高野
オブザーバー 事務局	朝倉, 西原 (京都市まちづくりアドバイザー) 北川, 牧村, 式部, 石田, 河村, 古東 (右京区役所) 戸田 (株式会社地域計画建築研究所)
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・次期右京区基本計画編集会議委員名簿</li> <li>・次期右京区基本計画素案</li> <li>・計画検討のプロセス</li> <li>・計画素案に関して意見をいただきたいこと</li> </ul>

### 1. 開会

- ・ 出欠委員の確認
- ・ 前回(2月27日)編集会議以降の動き及び流れの確認。

前回の編集会議は計画の骨組みについて議論を行った。今回は計画の素案についてご議論いただきたい。また、計画編集と同時並行的に「右京かがやきミライ会議」を開催している。区民公募で参加者を募り、参加した1人ひとりが実現したい未来に向けてできることを話し合ってきている。現在はそのできることを具体化するための相談会を毎週実施している。

### 2. 次期右京区基本計画 素案の内容について【意見交換】

- ・ 事務局から素案について説明。
- ・ 3グループに分かれて素案説明に対する感想や意見交換。
- ・ 各グループでの意見要旨を各グループ記録者から紹介。

#### 【グループ1】

未来志向の計画であるという印象を持った。新型コロナウイルスにより観光事業も大きく変容しているように、生活スタイルも変容してきている。それらを抜きに未来のことは語れない。

行政計画として、区全体としてこの計画をどう展開し、チェックしていくのか。行政は計画に基づいて事業を実施していくことが前提にあると考えるが、それらを全くなくす計画にするのか、5年間

の PDCA サイクルをどうするのか。ミライ会議で生まれてきたものを区行政として支援していくと言  
うことなのだろうか。

区民が主体ということであれば、それぞれが言ってきたこと、行動していくことをどうまとめ、  
つなぐのかということも必要ではないか。

#### 【グループ 2】

良い意味で行政計画らしくないものになっている。わくわくする一方で、どう実行に移していくの  
かをしっかり見ていく必要がある。それらが見えるような計画になれば良い。

ミライ会議や編集会議に参加している方は理解できるが、時間が経ち、人が変わると進まなくなる  
可能性がある。どうバトンをつないでいくかも大事である。

計画に基づいた目標や成果として、第 1 期基本計画は太秦天神川駅の開業のことが描かれている。  
第 2 期はまちづくり支援制度や市民活動の広がりが出てきたことが挙げられる。今回の基本計画はど  
ういう成果に繋がるのか。市民・区民に知ってもらう必要があるのではないか。

#### 【グループ 3】

計画の非常に大きな特徴である「じぶんごと」としていることは新しく、評価している一方で、個  
人ではなく、組織としてどう受け止めればいいのか、難しい部分がある。

数値目標は人それぞれによるということであり、特になくてもいいのではないかという意見の一方  
で、行政や区民が自らの首を絞めることがない程度の大きな目標があってもいいのではという意見も  
ある。

右京区の状況は世帯数の増減などは地域によって異なるので、全体を概括される情報があってもい  
いのではないか。

- 意見交換の視点について事務局から説明後、西原アドバイザー進行による、全体での意見交換。

西原：グループの報告をお聞きしていると、今後どういうアクションにつながっていくのかという疑問  
があるように見受けられた。また、区行政としての計画としてこれでいいのかという疑問もあるよ  
うに見受けられた。つまり、過去の計画では、太秦天神川駅やまちづくり支援制度などの成果があ  
るが、次期計画は区民 1 人ひとりにさらに寄ってきていることから、みんなで目指す姿を全体に、  
計画にどう反映していくのかという疑問があるということだろう。いかがか。

土井：過去 2 つの基本計画にも関わってきた。第 1 期計画はインフラをどうするかという曲がり角の時  
期、具体的には地下鉄の延伸をどうするのが課題になっていた。結果、区としての意見を取りま  
とめ、市に伝え、右京区の大きなインフラが整った。第 2 期計画は区民みなさんのまちづくり活動  
を広げようとしてきた。次に何が必要か、この先 10 年で自治会が崩壊するのではないかという危  
機感がある。担い手のみなさんが高齢になっており、地域の担い手、自治の担い手をどうするの  
かを主に置くことが必要と考えた。古い皮袋に新しいワインを入れるのではなく、新しい袋に入れ  
るという方法を、若者や転入者がつくっていきけるようにしていくことに注力することが重要である。

西原：1人ひとりがまちをつくっていくことが大事であるが、素案では、自治会や各種団体という言葉が出てこない。「組織としてどう受け止めるか悩ましい」という感想もあったが、それらを入れておくべきか、またはどう表現するのが良いか。

朝倉：前回計画から関わっている。現状では39ページの「サポートの仕組み」の部分が悩ましいと考えている。1人ひとりの活動をどう繋ぐのか、共有するのか、支援するのか、進め方をここに書いていくことになる。区民会議など今までの仕組みの反省やまちづくり支援制度のことなども踏まえて書いていく必要がある。この39ページ部分に記載すべきことについてもご意見いただきたい。組織としての関わり方として区民会議がすでにあるが、どうか。行政計画として区役所の役割も考えるべきであり、ご意見いただきたい。

永橋：5年間計画にしている理由は、次期京都市基本計画に合わせているという理解でよいか。また、暫定計画という位置付けの理解でよいか。

式部：京都市の基本構想が25年間で設定されている。その構想のもと基本計画10年が2期経過してきた、次は残りの5年間の計画になるということである。

永橋：将来の新しい基本構想に向けて区役所として検討していくものとすれば、次期計画は特に「人づくり」をやっていくということではないか。自治会等に入っていない人でもアクションにつなぐ、区役所として区民と一緒にやっていくことを柱として描いていく計画であれば理解できる。「じぶんごと」から考えるハンドブック的なものとして計画を使って、区民が考え行動し、結果、地域活動や団体の担い手が増えれば、この計画はうまくいったと言えるのではないか。区民1人ひとり各々に勝手にやるのではなく、共通の進め方、つまり「じぶんごと」を「みんなごと」にしていくことについて、区が予算化し、支援やつなぐ仕組みをつくることができれば良いのではないか。ミライ会議の中ですでに具体的に進んでいくものが見えてきているのであれば計画にも書かれるべきだと思う。ミライ会議で出てきたアクションを来年度から進めるという「リーディングプロジェクト」のようなものが計画に記載にあれば、計画に描いているプロセスにリアリティが生まれ、伝わりやすいと思う。

西原：「じぶんごと」を「みんなごと」にするためのつなぎ目が現状では計画に書かれていないが、それを仕組みとしてきちんと用意しておくこと、書いておくこと、実際の具体的なアクションも記載することでリアリティにつながるということ、そのことで右京区全体のことにつながっていくということだろう。

計画は分かりやすいが、本当に具体的なアクションにつながるのか見えないという意見があった。この計画でより具体的な行動に促すとすれば、どのような内容・アイデアがあるか、この計画内容で良いのかお聞きしたい。

山田：この計画の良さやワクワクはバックキャストの考え方で書かれているから。具体的な行動は未来から逆算して仕組みや取組をつくっていくということがワクワクにつながっている。みんなの理想に対して、自治会の活動をどう変えていくのか、そのために行政はどのようなサポートをするのか、個々人の活動がどうつながるのかを具体的な行動計画として書けると良い。「自治会どうしよう」という視点は典型的なフォアキャスト。そうではなく、理想に対して個々人がどんなことをやっていけばいいのかというプランを描けばいいのではないかな。

西原：自治会役員が集まり、ミライ会議のように話し合い、具体化していけばバックキャスト手法で具体化できるということか。

山田：ミライ会議で可視化された理想についてどうサポートできるかを39頁以降に書くことだろう。いろいろな人の理想が可視化されていけば、それらにつながる行動を個々人が考えるようになる。

朝倉：ミライ会議の意見というのは、計画発行時点、スタートのものとして掲載することになる。おそらく今後5年間に生まれる、または新しく関わる人のアクションや意見が加わって、さらに豊かな将来のビジョンを描いているものになるはず。つまり、運営しながら作っていく計画というイメージも持ちたい。土井先生の言われるように、「人づくり」が大事であるということ、まちづくり円卓会議や区民会議、支援制度もあったが、理想に向かって行動する人をどれだけ増やせるのが計画の重要目標になる。プロローグにあることそのものが目標になるのだろう。その中で区役所の役割を大事に考える必要がある。京都市には基本計画や分野別計画もあるが、同じことを書いても仕方ないわけであり、区として各分野やセクションに書かれていることを地域とどうつなげていくのかということも大事な点ではないか。

西原：団体に所属している委員のみなさんは、この計画で団体内にうまく説明できそうか。

永橋：「1人ひとり」という設定は画期的だが、区役所は何をするのという問いがある。例えば区役所の職員が1人ひとりこれに基づいて行動していくこと、行政のやるべきことを確認したりすることができるものになるかという視点も大事である。区役所職員は異動される。異動してきた職員が計画を見て、何をするのか分からないのではよくない。区役所職員として行政責任として、区民を見ていてやっていくことを示してくれると、区民も自分たちも行動しようと思える。リアリティにつながる。

西原：あえてその点は見せないようにしているのだろうと理解しているがどうか。

永橋：それは書かないと分からない。今いる担当者はわかるが、異動してきた職員は分からないだろう。

西原：区役所としての役割をどう書くのか。区の事業を網羅的に載せると、自分ごとになりにくくなるという危惧があるがどうか。

永橋：網羅的に区の事業を載せるのではなく、この計画にあるスキームによって区役所1人ひとり職員

が考えた区役所のパイロット事業のような新しい事業も見せるといいのではという意味である。

土井：区役所がまちづくり活動をするのはいいが、より大事なことは、考え方、ワークシートにあるポイントをフォローすること、例えば「仲間を見つけましょう」とあるが、見つけれない人もいる、それをつなぐ、紹介すること、情報を蓄積するなどは区役所がすべきことだろう。例えば、健康の取組をする団体も右京区だけでたくさんある。それらは保健部局がもっている情報だとしても、そういうものを提供したり、困りごとを相談しやすい場、団体や講師などをつなぐことなどは区役所の信頼によってしかできないこと。それら、1人ひとりのアクションをどう支えていくのかを39ページ以降にきっちり書いていくこと。計画1年目からできなくても、5年間かかってでもできることでも良いが、しっかり議論して書いておきたい。

西原：区の既存事業や各団の事業は、これからの取組に掲載した方がいいのか、どうなのか。39ページ以降に書くべきことの意見等は出されたが、38ページまではどうか。

朝倉：見やすさ、校正など何でも構わないのでご意見をいただきたい。

永橋：30～31頁にワークシートを使っての自分の動きをまちの動きに展開していく事例があるが、これだけだと個人のマニフェストで終わっており、もったいない。39ページ以降には、これらを右京区全体を動かしていくもの、制度や予算につながるということを書く、伝わるのが非常に重要。

西原：30-33頁に書かれている各分野の理想と自分でアクションを考える意識・行動をどうつなげたいのか。区民としては1-9を大事にしながら、さらに個人としてのアクションを磨くということであれば納得するところもでもある。

朝倉：区役所の年度計画においてもこれらのアクションの中身を参考にしていくことになるだろう。その点も39頁以降に書いておいてもいいのかもしれない。

松田：とにかくワクワクするが、「なまもの」の計画、生きている計画というイメージがある。何にとりかかって広げるかで5年後が変わるような気がする。今までは先に決まっていて、それができていますかというイメージ。この計画は途中で見直すことがOKなのか。「なまもの」だから1年経って、どうなのか、見直しながらやっていく計画は可能なのだろうか。

式部：可能というよりもこの5年が基本構想の最後の5年で、次の大きな構想をこの5年で検討していくことになる。つまり、次の時代に向けたことを考える期間でもある。動かしながら、いろいろな人が考えて、行動し、次のことを考えていくことでもある。「まちの目標」をあまり書いていないのは、5年後に描ければいいのではという区役所内部の気持ちもある。「なまもの」の計画というネーミングを使いたいと思うくらい、その通りである。

西原：毎年、どのような取り組みが進んでいるかみんなて共有していかなければ、まさに「なまもの」として腐っていく計画になる。場や流れでなく、計画にそのことを書き切ることが必要。

徳丸：30 ページ以降を実行するには、少なくとも2つのことが必要。1つは集まれる場所、そしてもう1つは集う人が必要である。それらを持っている団体は弱小団体だが、人が集まる場にはアイデアがある。これらを実行する人も集まってくる、集めてくる。それらプラットフォーム的な役割が必要。まちづくりは人づくりという思いは強い。「なまもの」をどう料理するのか、腐る前に食べてしまうという視点が大事であり、やっていく、行動を起こすためのつなぐ・施策のあり方を描く必要がある。ターゲットを決めるならば、子ども中心にしてみたい。

田沢：30 から 33 ページまでの具体的な9項目について、区役所としては具体的にやっていくこと、区民のみなさんにやってもらいたいこと等の具体的な行動指針があれば、動きやすい。3、4年後のチェックや評価基準にもなる。今すぐできること、何年か後にできることなど具体的に分けて、「できることはすぐにでもみんなでやる」等と記載してはどうか。他、興味を持ってもらうには、スローガンが必要。例えば、区民ビッグスマイルプロジェクト等。

西原：計画の愛称のようなものか。この計画は今すぐに行動していくこと、未来のビジョンのことも書いている。個人の行動や意識の変化も書いているので、この部分に区役所としての行動、事業などがさらに書かれていると区民の安心感が増すということだろう。

式部：正直に言えば、そういうことを書くのかどうか悩んでいるところ。今日の意見を踏まえながら検討していきたい。

北川：30 ページからある9つの理想のまちの姿は、ミライ会議に参加した方が語ったものがまとめられている。区役所内部でも具体的なまちの姿を書くのか書かないのか議論になった。計画のまちの姿の9項目なのか、あるいはミライ会議の例示なのか、曖昧に見えることに気づいた。9つのまちの姿を実現するならば、区役所が何をしていくのかをここに書くのが適切だが、今回は「なまもの」という言葉が出されたように、1年先すらわからない状況の中、「このようにしていく」と縛られるものでなく、1人ひとりが考えて柔軟に未来を探っていくことを計画の基本にしていくとしてきた。この9つを計画で目指す姿として位置付けると、その時点で区民のみなさんの「じぶんごと」でなくなってしまう気がする。9つの項目部分をどのように見せるか整理した方が良い。

西原：9つの項目を右京が目指す姿として見えてしまっている。見せ方が課題。

永橋：そのように読まれてしまう危険性もあるが、これは1人ひとりのマニフェスト、区としてまとめたものではないと理解はできた。おそらく田沢委員もそのように理解されているだろう。だからこそ9つに書かれている1人ひとりの思いを、区としてそれを形にしていくための具体的な施策等を書く、区民がコミットしながら「なまもの」をつくっていくという思いを込めないといけない。

田沢：ミライ会議での意見は区民の意見でもある。思いを持った人しか発言しない。これからはそういう思いを持つ人を増やしていくことが必要。ミライ会議の意見をどんどん表に出していく。「意見を

出せば、取り上げてくれて、実現に向けて動いていくものなんだ」と感じてもらうことが大事。今の9つの内容をベースに肉付けしていくことも良いのではないか。

西原：思いを持っている人の行動を支えるだけでなく、それらを見せることで思いを持って、表にだしてもらって投げかけもしていくということ。今後のサポートの仕組みとしてそこまで踏み込めるかどうかということ。

西原：この会議では、わくわくをみんなにどうつなぐのかについて39ページ以降でどのくらい具体的に記載できるか、9つの項目の見せ方の工夫・整理の仕方を事務局への宿題としていただいた。

### 3. 今後の予定など事務連絡

式部：次回編集会議は12月24日に予定している。年度を跨いでパブコメを募集するために、年内にパブコメ案をまとめていくことになる。また、毎週木曜日の相談会に加えて、12月6日にミライ会議の開催を予定している。

### 4. 総評（編集長）

土井：非常に良い時間を過ごせた。チャレンジしている素案。わくわくしている、「なまもの」という言葉は褒め言葉だろう。ただ、これを実行していくための仕組みについては少し議論が足りない。深めるべきところとして、考え方や思いを伝えるのは難しく、具体的な形で伝えることがいくつか必要であり、できる限りそれらを考えていきたい。もう1つは区としてどういう仕組みづくりをやっていくかということ。最後のページだけでなく、9つの項目の部分についての区の働きかけもある方が分かりやすいかもしれない。これからの自治連合会や各種団体がどうなるかについて、担い手が高齢化していくなどもあるが、その方々の力がないと進められないはずであり、重要。今、計画からそれらが見えなくなっているが、そういう団体にも若い人が集まり、語れるようにしていくことも必要。例えば、まず消防団に入ってみるといったことなど。そして、ミライ会議を今後どうつないでいくのかを考えておいた方がいい。今の区民会議と並行するのか、替わるのか、エリア別ミライ会議をするのか。このエネルギーを計画策定で終わらず、次につないでいくためのミライ会議のあり方をそろそろ考えていく方がいい。考えることも多く、ワクワクした議論ができた。ありがとうございました。

以上